田代時報
第8号
発行所　田代村公民館
電話　1番
発行責任者　上田政吉
編集責任者　小川兵一
印刷所
鹿屋市曽田町6647
南日本新聞社東部支社
電話88.98.126番

経済自立化運動 8

四の（三）振興小組合の活動

八、受持道路掃除区域の防災
我々は村外に一歩足を踏出して先ず感ずることは道路の良い事で、本村の道路とは比較にならない位良い。本縣から他府縣に出ると同置痛感させられる。其の原因は色々あると思うが二、三挙げて見ると先ず第一番目が本縣の経済の貧困さが最も大きな原因であると思う。次に川砂利が出る処が少ない事、三番目に遡去に於て地元民の熱心が薄かつた事等で、本村の場合は更に土質が更に粘土質で然かも日陰地になる道路が多く降雨日数が多い事等が加さられると思う。

1、道路が悪ければ我々の日常生活にも余り良い感じはしないが物の生産にしても事業にしても非常に苦労し、能率も上らず買う物は高く売る物は安く売らなければならない事になる。

又西洋諸国では履物も短靴一足あれば年から年中事が足りると云う日本に於ては短靴、地下足袋、日和下駄、雨履等と色々な履物が必要である。之は生活改善部面からも考えなければならないが、道路が悪いから日常生活の面にも斯くの如き無駄が多いのである。

農業に於ては特に肥料の購入、生産物の搬出、農作業に道路が悪ければ能率は上らず、物の生産費生活費が揚り我々の経済は益々苦しくなるのである。

2、此の道路を良くするには
縣道は縣に陳情し縣費を投じて補修して貰う事が最も良いのであるが、縣の財政も苦しく仲々思う様に行かない。然し一昨年柴立さんが縣会議員に当選され然かも土木委員となられ、猛烈な御活躍に依り大隅の土木事業が進展しつゝあるのでありますが、過去に於ける大隅の地方民の土木熱が薄く常に後れているので新設改良工事は縣費の八割が大隅に投ぜられつゝあるが、補修費に於ては縣下全地に便用されるので仲々思う様に進まないのである。

村道に於ても皆様御承知の通り村の財政が苦しいので過去よりも相当の土木費は計上しつゝあるも充分とは云えない状態である。此の様な状態では何時迄待つても既設道路は益々悪くなるばかりで従つて本村の産業発展は期せられず延いては我々の生活経済は益々苦しくなる一方である。

我々は此の際縣が村に造つてくれた此の道路を之以上悪くしない様に我々の手で守つて行くより外はないのである。

又一面我々が此の道路を愛護する熱意を示したならば柴立縣議も縣に於ての活躍もし易く補修費の確保も容易に出来ると思う。

愛護品評会が行われているが本村の成績は何時も中以下である。郡内で最も成績の良い町村は百引村である。私も一回百引村を通つて見たがそれは実に立派である。

あれ丈の道路掃除を良くも村民の手で行われるものだと思われる位徹底している。

我々は此の際考え直して見なければならないと思う。年四期の道路掃除も形式的で男の居る世帯でも平然で女子供を出している家庭もあり半日か一日位で事を済している状態であり、道路を通る時も如何なる障害物があつてもそれを取りのけ様とするものもない。

側溝に障害物があつて水が道路を流れても此の障害物を除去し様とする者も殆ど見受けられない現状である。四期の道路掃除以外各々が道路を歩く場合何時も道路を愛護する心掛が必要であり、尚此の外小組合毎に受持道路掃除区域の防災係を設け各戸が輪番制で次の様な作業班を設けるならば本村の道路は現在を維持出来然かも縣当局より認められ道路が立派になる事は必定である。

受持道路掃除区域防災作業案
A　防災班は二戸宛一ケ月交替として雨天の場合は必ず受持区域を巡視して水の流れを良くし溜水の切流し等を行う。
B　一ケ月一回位は必ず小組合全員出揃つて路面の凹凸、陥没等に砂利又は土を入れる作業をする。

哀れなる滑り台

篠原　亮

『田代には人材が居らぬ・縣議』
其の他の官公吏に行つてみても他町村出身者は多いのに、本村出身の人を殆ど見出し得ない。田代には人材が居らぬ。人材出でよ！』
何たる痛烈な言葉であろうか。
私はやがてこの村の同様な環境の中で、祖先や先輩達と同じく夫々の人生航路をあえぎ〜進み行くことであろう新卒業生のことを想起しては、先刻卒業生に贈られた右の言葉に心中、独り云い知れぬ苦悶の情を覚きつゝ、招かれた謝恩会の席へ出かけて行つた。
其の他の官公吏に行つてみても他町村出身者は多いのに、本村出身の人を殆ど見出し得ない。田代には人材が居らぬ。人材出でよ！』
何たる痛烈な言葉であろうか。
私はやがてこの村の同様な環境の中で、祖先や先輩達と同じく夫々の人生航路をあえぎ〜進み行くことであろう新卒業生のことを想起しては、先刻卒業生に贈られた右の言葉に心中、独り云い知れぬ苦悶の情を覚きつゝ、招かれた謝恩会の席へ出かけて行つた。
去年、非常な論議を経て、終に廃止されたまゝ放置されている北尾神社の旧参道には、むき出しになつた細い水道管が通行を妨げている。
校庭に入つてふと目についたのは、児童の滑り台である。
かねて皆が喜び遊んでいることであろうと思つていた滑り台でもあるが、みると驚くべきことには、その底はむきだしにも破損し、とても滑ることは出来ぬ。かえって危険な遊び道具となつているではないか。
あゝ哀れなるこの滑り台。
私はこの一事実に刺戦され、種々の事柄が止めどもなく心に浮かんで来て、謝恩会における感謝の味は殆んど覚えぬ程であつた。
帰途更に気をつけて見れば、学校の窓ガラスは破れたまゝの所が多い。冬の間は寒風吹き荒び、生徒達は定めし寒気にふるえつゝ、勉学を強いられたことであろう。
かゝる哀れな学校の機様を知つた時、私は現在の学校教育のことを些か深刻に考えさせられた。

×　×

一体人材を養成する基礎が教育にあることは、こゝに論ずる迄もないことであるが、案外政治的にも一般的にも余り重要視されていない様な感がある。
それは物的には教育費の町村財政に占むる割合を見ても分るし、精神的には教職に対する関視からも明らかに云い得ることであろう。
前者については、苦しい財政上如何ともなし難いという反対論が成り立つが、苦しければ苦しい程教育は軽視される傾向にあることは否定出来ないであろう。
又後者については、その原因は多々あるであろうが、根本的には教師自身の無理想、無信念、唯物的拝物主義に基く我利々々の人生観等による。教師自らの自己卑下所謂潜在的卑屈感（インフエリオリテイ・コンプレツクス）にあるかも知れない。
自己を軽蔑する者が、如何にして人に尊敬されよう。かくて生徒が教師を軽蔑し、父兄一般が軽蔑することとなれば、所謂師弟の道は無くなり、教育は成り立ち得ぬ事となるのである。
河村幹雄博士と云えば九州帝国大学の教授として人も知る真実の教育者であつたが『愛児の教育と其学校の撰択』と題する講演において、この事を痛論し教育革新の方策として、先ず第一に愛国の士進みて教育に従事すること、及び国民こぞつて教育者を尊敬することの二つを説いておられるのである。（河村幹雄全集第一巻）
教育者を尊敬するというのは、無論物質的にも精神的にも之を厚遇するのでなければ意味をなさない。
かくすれば、必ず優秀なる人物が教育界に集り、教育の効果は期せずしてもあがるであろう。
村に人材無きを憂うるならば、先ず教育の実質的充実を計らねばならぬ。而してその第一歩は教育家自らの誇りと、教師に対する一般の尊敬の念を高揚することでなければならぬ。

×　×

職つて責をなすぬれば、誉て福井藩の重職にあつた鈴木主税なる人が、水戸の儒学者田東湖先生に会つて、天下人材の乏しき を歎じたところ、先生は之に対し、藩には藩本左内なる人物がおるではないか。年こそ若けれ、学問と云い、才力と云い、又識見といい、非常に傑出した人物である。折角これほどの人物が同藩にありながら、それを用いずして、人物の乏しきを嘆くは藩に人はないかと云われたので、主税も成程と思つて直ちに之を起用したことは有名な話である。
人を見るに地位と権勢のみを以てしてはならない。真実の誠心と国家或は郷土の為尽力し得る能力を有するや否やを鑑別しなければならない。
而して教育の主眼も亦、立身出世を強いるのでなく、真実世の為人の為尽くし得る有能なる人物を養成することでなければならぬ。
それと共に、現在村内にある人物を起用し、顕彰して、その力を更に伸長せしめる様、互に切磋琢磨することが肝要である。
郷土を興す者は、他町村にある人ではない。又自己の栄達を思う人でもない。
村内有為の人物が互に切磋琢磨し、夫々村の礎となる覚悟を持ちつゝ勉励するならば、村風必ず革正され、自力更生の実はあがるであろう。

×　×

教育を真に重視尊重し、学校の教育施設を充実しつゝ、有能なる教育者を村に集めて、子弟の教育を向上せしめ、一方志有る人士互に切磋琢磨しつゝ、郷土振興の底力を養成すること、之眼前の緊急事ではあるまいか。

通常総会開催のお知らせ

田代村農業協同組合
組合長理事　平川正明

拝啓　陽春の候益々御清祥の段御慶び申し上げます。
わが農協も創立以来満五週年を迎え、今昭和廿七年度は組合員の総意による事業年度の変更が決定し本年二月末日を以て終りました。
就きましては過去満五ケ年の業態と来事業年度の計画、其他定款変更の件、役員の報酬決定の件、信用事業拡充三ケ年計画承認の件、余剰金預入先銀行決定の件、昭和二十八年度事業計画承認の件、信用事業拡充三ケ年計画承認の件、余剰金預入先銀行決定の件、昭和二十八年度資付金の最高限度及最高利率決定の件、昭和二十八年度繰越の賦課及徴収方法、徴収時期決定の件、昭和二十八年度借入金の最高限度決定の件、昭和二十八年度資付金の最高限度及最高利率決定の件、昭和二十八年度繰越の賦課及徴収方法、徴収時期決定の件、信用事業拡充三ケ年計画承認の件、余剰金預入先銀行決定の件、役員の報酬決定の件、昭和二十八年度事業計画承認の件、昭和二十八年度事業報告書、財産目録、貸借対照表、剰余金処分案承認の件、定款変更の件、昭和二十八年度資付金の最高限度及最高利率決定の件、昭和二十八年度繰越の賦課及徴収方法、徴収時期決定の件、信用事業拡充三ケ年計画承認の件、余剰金預入先銀行決定の件、役員の報酬決定の件

記

一、開催日時　四月八日午前十時
一、開催場所　田代小学校講堂
一、議　題
㊀昭和二十七年度事業報告書、財産目録、貸借対照表、剰余金処分案承認の件
㊁定款変更の件
㊂昭和二十八年度資付金の最高限度及最高利率決定の件
㊃昭和二十八年度繰越の賦課及徴収方法、徴収時期決定の件
㊄信用事業拡充三ケ年計画承認の件
㊅余剰金預入先銀行決定の件
㊆役員の報酬決定の件
㊇昭和二十八年度事業計画承認の件
㊈信用事業拡充三ケ年計画承認の件
㊉余剰金預入先銀行決定の件

役員選挙のお知らせ

田代村農業協同組合
組合長理事　平川正明

御承知の通り本年は役員の改選期でありますが、本年より総会外の選挙が出来る事になりました。就きましては左記により総会外に於て役員の選挙を執行致します。

記

一、投票日時　四月十七日午前七時より午後五時まで
二、投票所　麓地区1村麓会議事堂　川原地区1農協大原支所　東部地区1農協粉工場
三、開票所　農協事務所
四、選挙する理事及監事の数
理事九名　監事三名
五、投票用紙に記載する被選挙人の数　理事一名　監事一名

経済自立実行事項

四　月

◎麦——今月に入ると麦も出穂の準備に入り、又一方雨の多い点から病害（銹病、うどん病、赤黴病）の発生がみられますので麦の増収は病害の予防に起因するのであります。病害発生の場合は薬剤の撒布を致しましょう。薬剤は石灰硫黄剤の〇・五度液（原液三〇度の場合は一升につき水七斗三升四合）を反当八斗一石、五日から七日目毎に二三回撒布致します。
◎甘藷——備芽床の移植は発芽後一寸五分から二寸位に伸びた時期に十分肥えた暖い所に根を傷めない様にして移植する。
本年度から農協出荷向けが一級品（蔓林二、三号、ナカムラサキ、源氏）でありますので出荷に手間の掛らぬ様に植付も計画的に出荷向け食用飼料別に実施して反当の増収を計りましょう。
◎夏ソマ——ソマの播種は上旬までに終りましょう。畦巾一尺二寸で反当播種量四一五升、堆肥一五〇〆、硫安三〆、過石一〆五〇〇匁
◎落花生——今月中旬まで畦巾二尺株間一尺、反当種子量五升、堆肥一〇〇〆、過石五〆、木灰二〇〆、溝に石灰を撒布し、その上に堆肥を施し木灰は整地の際撒布
◎夏大豆——今月中下旬に植えましょう。大豆は播種期により増減収を致しますので適期に播種を致しましょう。尚奨励品種（改良自目白一号）は生育旺盛でありますのでなるべく薄播き（反当三升位）点播を致しましょう。
◎蔬菜——栽植を四月中に行いましょう。堆肥四〇〇〆、過石五〆、糞尿一〇〇〆、油粕五〆基肥に施す。
◎蘿蔔——温床苗の定植を行いましょう。
1、早生南瓜　畔巾五尺×三尺
堆肥三〇〇〆、油粕一〇〆、過石一〇〆、木灰二〇〆、下肥二〇〇〆
2、西瓜播種　畦巾六尺×五尺
堆肥二〇〇〆、油粕一〇〆、過石一〇〆、硫安五〆、木灰四〇〇〆、下肥三〇〇〆
西瓜は連作はきらいます。
3、胡瓜の播種及び温床より定植
畦巾三尺×二尺五寸
堆肥四〇〇〆、油粕一六〆、過石一〇〆、木灰一〇〆、下肥一〇〇〆
4、茄子の定植　畦巾三尺×二尺
堆肥四〇〇〆、油粕五〆、木灰二〇〆、下肥一〇〇〆、過石五〆、木灰二〇〆、硫安三〆、下肥一〇〇〆
5、トマトの定植　畦巾三尺×一尺五寸　堆肥三〇〇〆、過石五〆、木灰四〇〇〆、下肥一〇〇〆
6、時無大根の播種
一尺二寸の條播　堆肥三〇〇〆、過石五〆、木灰二〇〆、硫安三〆、油粕一〇〆
7、人参　品種五寸三寸MS種一尺八寸の條播
堆肥四〇〇〆、木灰三〇〆、硫安三〆、過石五〆、下肥一〇〇〆、油粕一〇〆

定刻厳守

人会を対象に集合を願つたのであるが定刻までに全員一〇〇%集合した團体は左の十一（三分の一）にも足らず）でした。
東ノ原婦人会
長谷婦人会
四中恵婦人会
山下婦人会
表木婦人会
折小野婦人会
猪鹿倉婦人会
島崎婦人会
原沢婦人会
郷原婦人会
昭和二十八年度振興大会からは競技項目の採点要領も変り生活改善部門において此の諸会合の出席点数おも採点したいと考究中であります。
村民の皆さん、世の中に起き遅れてはならぬ。働らこうではないか、時間を大事に守ろうではないか、今日も又激しく時間を知らせる『サイレン』が鳴りひびいて居る。
次に特に出席数もすくなく時間も守らなかつた團体は左の通りでした。
山ノ口婦人会
内ノ牧婦人会
新田婦人会
中尾婦人会
久木野婦人会
上平立婦人会
池ケ野婦人会
辺志切婦人会
鶴園婦人会

縣立図書館

田代出張所だより

縣立図書館田代出張所には只今次の様な図書を備えて愛読者の御来所をお待ち致して居ります。

藏書名

ドリトル先生のアフリカゆき　若き建設者
自然の宝庫をひらく
目の発達　メギー新ら
火炎と消防　中国小説
しい国へ　新聞　麗会、人民　私の歩み　フランス哲学思潮　哲学ノート　日本人物記　郷土誌大系第十二巻　人文地理学　教育評論　日本史亡ぼ
したもの　学生と社会　見置研究
女性西洋史　『厳後派』の研究　家庭の医学　真実の探求　生物宝典　和服裁縫（冬物）　和服裁縫要談　建築応用力学　養鶏家
営相談　学校劇集4　外国映画の
鑑賞　青春の悲歌　猪明物語　母の小夜曲　ピンコさんとコネコ
アグニの神　現代戯曲選集（第三巻）　良識と寛容　情熱の三部曲
永遠の影　現代詩鑑賞　現代日本
小説大系三四　有効期間十日間
西班牙猟太闘集　漱石全集（第十八巻）　仏蘭西近代戯曲集　北欧
三人集　川端康成全集第六巻　生活の中の詩　聴の合唱　現代日本
小説大系　話を買う話　幸福の銀貨　学級文庫とりのてがら　学級
図書館　生酒と生活　たしさんひきさん　フランダースの犬　赤バラ白バラ　新吉君の新しき　科学と技術文化　科学談義家つと
精神の自画像・青年の心理　新しい世界史　森鷗外　国文法　経済
学入門　子供の教育について　愛児の教育のために　スターリンの
微笑　ラヂオ修理メモ　母の手芸
新農家要覧　農作物と気象　音楽の教室　近代俳優術　わが心に風は鳴りひゞく　十二夜　ヤードレーと論　ホールとヴィルヂニー
青春は美し　ニュートアトランテイス　親和力ゲーテ　艦獄の一生
其他　農道は遥かなり　追われる魂　失われた青春　高山右近　明治小説論　鈴木三重吉　岡本かの子全集　薔薇と荊の細道　横溝正史　現代日本小説大系第八巻　短歌名作選本　僕等は日本の子供
西洋歴史の話　ふしぎな冒険　築
しい家庭　作文　人文地理　次郎の栄養学　打撃王ゲーリツグ　森
の小人　地球のふしぎ　ぼくたち
の電波研究　おもしろくてためにな
る算数の世界　ロビンソンクルーソー　温度の実験と研究　物理
計算問題の解き方　学生と語る
彼が今日を築くまで　親鸞意志
日本文化の起源　未来生活風景
イタリヤ語入門　愛と規律の家庭
教育　棚御宣南の税務経理　デユ
ウイの教育思想　公務員試験問題
の研究　住生活　日本建築小史
新農地方　植物生理　バレーボール　三太物語　アイヴンホー　ネ
プラスから來た男　医師ギオン
ホーソンマークドーエン　カラマ
ーゾフの兄弟　若き日の手紙　若
き人々のために　街の灯　愛と罪
夏目漱石作品集　伊勢物語　秀句
鑑賞　現代日本小説大系四七　現
代日本小説大系別册第一巻　今年
竹　夜や秋や日記　島木健作全集
ちよぶらん島漂流記　細雪下巻

郷土の支柱

公民館主事　小川兵一

政治、教育、産業が郷土振興の支柱であり、村が発展するか否かは此の三つの支柱が健全に伸びるか否かにあると思う。

教育活動は政治活動や産業活動の如く、其の効果が短期間に現はれない為に、ともすれば忘られ勝ちのであるが、郷土を支えて居る三つの支柱の中、教育と言う支柱の力が弱まれば、我が村は片方に傾き健全な発展性を失う事は誰にもわかる純理であつて、教育振興の緊急事なる所以である。

都市地帯の住民は教育意識が高い上に、教育環境が整備されて居るから、教育程度は弥が上にも昂まつて行くのであるが、田代村の様な田舎村、外部からの刺戦が少ない為に、住民の教育に対する関心が薄く、教育環境が粗雑であるから、為政者は特に其の点を要慮した行政の心構が必要であり、都市附近の教育行政に比較して数倍の努力を必要とする所以でもある。

即ち都市には自然に出来た教育施設等の如きものでも、田代みたいな山村では、態々予算に計上して、施設しなければならない種類のものが多く、山村の教育予算は都市附近のものに比べて相当比率は高かるべきはずなのに、実際は逆な比率によつてまかなはれて居る。

農村教育の現状に真面目な反省がなされて善処出来る機会が来なければ農村社会は永久に浮ぶ瀬に恵まれないのみか、真の強靭さを発揮して生々発展する機会は過つて来ないであろう。

我が村は未だに農奴的封建教育の宿性から脱脚して居ない。其の端的な例は（百姓は雨で飯を喰うショウバイではない、鍬で喰う職業だ、学問は雨で喰う人種に必要なものであつて、百姓の学問は無用の長物であり、たいがいで良いのだ）と言う封建的農民教育理念の残滓が未だに農民の心の中に根強く巣喰つて居る事である。

斯の如く誤つた考え方を、さも当然かの如く信じ切つて居た大半のものは、自然に学問から遠ざかつて行き、特に百姓は自らの智能を腐ることを怠り、従つて研究心は乏しくなり、計画性のない十年一日の如き営農に満足して来たのである。

其の結果は三十年も四十年も否先祖代々幾十年となく、自己に与えられた天職として、粗り扱いて来た自らの職業であり乍ら、二十才代の若い技術員に指導されなければ満足な営農が出来ない様な他力依存主義と言うか、全く情けない無気力な現在の状態をでつち上げて仕舞つたのである。

これが今日我が農村を零落せしめて居る最大の原因でなくて何であろう。

此れを農民の自得とのみ言えない所に、過去の農奴的な制度や教育に封建性があるのだと思う。

此の農村発展の障（がい）となつて居る警習を打ち破つて、生々発展する新らしい農村社会を建設して行く者は誰か？　それはお互い農村民自身でなければならない。百姓は少々馬鹿でも良いと言つた制度や教育が通用した時代は既に遠い昔の夢である。時代は日進月歩の勢で進展して居り、科学文明は勿論のこと、日本の農業も世界の農業に刺戦されて、近年急速な発展を遂げて居る時に、一人田代の農民だけが時代の趨勢に取り残されつゝある現状に反省を加へ郷土をつくろう等と願つても、其れは磯の鮑（あわび）の片思いとも似て、絶対実現出来ぬ願望であろう。

事此処に至れば、村民は打つて一丸となり、農村教育の刷新をはかり、農村発展の隘路をなす封建的弊習を打破して、先ず農民の他力依存主義を改め、自らの力によつて立上る強い気魄と精神を養い一日も早く農奴的生活環境の中から脱脚する体制を整えなければ、後世にわさわいを残すことは勿論我が村は永遠に興隆することなく弱体化して行くが如き幾多の條件を内包して居るのである。

幾多の蓄財を残す、心の足まらなぬ見、孫之を守らず、一代にして財を失うが如き例は珍らしくない。

西郷南州先生が『子孫の為に美田を買わず』と訓された言葉も噛味すべき教訓である。

政治を営むものも、教育を行うものも、産業に従事するものも結局は人であり、人をつくること（人材を養成すること）が如何に大事であるかは喋喋する迄もなく、是が郷土振興の基礎であることは何人と雖も異論のない所であろう。

人材を養成するものは教育にあることは言う迄もないが、教育の効果が一朝一夕に顕はれるものでなく、二十年三十年の永い才月を積まれた教育の力が、人材完成の結果をもたらすのであり、其の時々の打算心に拘泥して居ては教育振興に真の熱情は献げられるべくもない。

過去の為政者に於て教育の重要性を認識し乍らも、尚且つ教育行政のなをざり勝にあつた所以のものは、自己一代に功績顕現のかなはぬ教育行政よりも、短期間に功績が顕はれ、一般に認められる産業行政が魅力的であつたからではなかろうか。

私は産業活動の重要性や、経済振興の必要を毛頭否定する気持は無い。唯現今の人心が余りにも、先ず経済観念に沈潜し、精神的ようるをいのない唯物観が強くなりつゝある風潮に一沫の不安を感ずるのである。

物心は鶴瓶も同時出発的であり一如の姿でなければ、豊にして明朗且つ平和な社会は望かれないことを確信するものである。

而して教育には学校教育と社会教育とがあり、両者が互いに提携し、表裏一体の活動によりてこそ教育本来の目的は達成出来るのであり、社会教育を度外視しての学校教育も、学校教育を無視しての社会教育の振興もあり得ないことは言う迄もない。

此の根本理念に根拠を置いて生れたのがPTAであり、之が運営宣取を得れば、学校教育と社会教育とを結ばしめる強靭な紐帯となり、教育効果は更に増大するものと思う。

学校教育の場としての学校の如く、社会教育の場として生れたのが公民館であり、従つて公民館はあらゆる社会教育関係団体に、高度に利用される事により始めて其の機能を充分に発揮するのであつて、此処を総合拠点として村の社会教育振興の方途が確立されなければならない。

我が村に現存する社会教育関係団体を一瞥すれば、PTA、青年団、婦人会、壮年団、振興小組合、未亡人会、遺家族援護会、仏教婦人会、其の他の文化団体、四Hクラブ、生活改善クラブ、各種園芸クラブ、特殊なものとしては南德会等がある。

以上の如く我が村にも幾多の社会教育関係団体が在るにも拘らず村の社会教育が今日の如く振わない原因はたんにあるのであろうか。

思らに、止まることなくして常に流れつゝある川の水は、腐敗することを知らないが、流れる方向を失い、沈滞して不動の溜水と化せば腐敗して其の價値を失うと同様に、数ある我が村の社会教育関係団体に正しい目標がなく、今日迄活発な活動がなされて居ない処に社会教育不振の最大原因があるのではなかろうか。

社会教育の不振は、学校教育を含めた教育行政全体の不振を意味し、教育行政の不振は村の不振の根源に連なるものである。

社会教育の振興こそ村の発展を来すものであり、今こそ英断をふるつて封建的な古い考え方を棄て我が郷土田代村に政治も教育も産業も遅（たくまし）き向上の活動を期し得るが如き人材を育成する立派な教育環境を啓発する為に、総力を結集すること、其の事が我が村を永遠に発展させる基礎となるのだと言うことを信じて疑はないものである。

開眼

林憲之

人間は地上に生れたものであり地上に生れたものであるが、地上を這う虫とは異り絶えず天上を仰ぐ心を持ち、限られた生命を持ちながら、本能的に生きるのでなく永遠を思うはたらきを有しております。我々が生活のよりどころとするものは自然界であり、そこにくりひろげられる人間の営みには個人、団体、階級、民族、国家等の間に於ける相対的の問題や、神仏、宇宙、真理に関する問題が織込まれている事は云うまでもありません。科学の進歩は人間の知性のはたらきに基いていますが、一面此の麗しい世界を次第に狭くしているとも云えます。成層圏を飛ぶ旅行機に乗れば遥距離を短時間で飛ぶ事が出来るし、我々はジェットの前で世界各国の生活ぶりを知ることが出来ます。従つて人間の知性は一方では自然を征服する歩みを進めつつ他方では人間存在の如何に微弱であるかを自覚させもするのであります。今迄宗教と科学とは相反するものであり、科学の進歩は宗教を不用にすると云われた事がありますが、これは眉の一面しか見ない臆論でありません。有名な科学者『ダーウキン』が大自然の壮麗に『おゝ神よ』と跪いたことや、オーストラリヤの一牧師メンデラが豆の花を教代にわたり観察する事によつて遺伝の法則を発見した事実を想いおこすべきであります。東洋においてはこのことは一層はつきり致します。仏典の中に現われてくる世界生成の原理や人間心理の分析に至つては正に今日の科学文明に先駆するすぐれた学説が充満しているのであります。人々は人間の知性に信頼しきれたと云われません。見方によつては『先王の道』として漢民族の理想として生きて来たと云えましょう。だがこれは今日の毛沢東政権の下においてもたしかに生きている尊い道義的観念と云えましょう。

原子力時代は正しく此のような深刻な問題を我々に呈示していると云えるでしょう。そこで我々は人生を相対的な立場に於て把握すると同時に又絶対的なものについて理解する事が必要となつて来るのであります。孔子の弟子子貢が政治について尋ねたところ、孔子はこれに対し『食を足し、兵を足し、民之を信ず』と答えました。子貢は更に進んで万一棄てねばならぬ事情が生じたら三つのうちどれを先にしましようかと質問したら、孔子は直ちに『兵をすて』と申しました。それが孔子の信念であつたのでしょう。德教を重ずる余り武備絶対不必要と云うのではなく、万止むを得ずとの條件の下で彼は武備を棄てんと云つたのであり。今日の日本人は此の言葉を深く考えてみねばなりません。子貢尚突込んで、已う得ずしてすてるとすれば残りの二つのうち何れを先にしましようと問たとき、孔子は『食をすて』と告げ、この次に『古より皆死あり、民信なくば立たず』と附け加えて居ります。

なる程我々は『蛇と蛙』の世界を考えて見ると慄然と致します。力と力が角逐する世界。自からの種族の存立のためには只多く生みつけて暴力の下にも生き続けようとする生物の本能的な生慾は実に息詰まるものを感じさせます。鯛や鯉の大群、蜘蛛や蛙の卵を見る時この想パーセントが生き残ることでしよう。相手を自分の生存の為の餌食にすることが避けられない世界は動物的なものと云わなくてはなりますまい。人間同志の間に信がなかつたらこれは生物界とは云われても人間界とは称されますまい。『人間は死すべき存在である』これが孔子の諦観であり、此の真剣な人生に於て不信の生活を逸つてはならぬとするのがこの人生態度であり『食をすてよ』と云つたのは食の問題の底に人倫を尊重すべきことを明にし、この人倫の大本は天道に基くとの認識によつてほとばしり出た言葉でありますこの様な天に基く德教の精神も彼の時代又は後代において実現されたとは云われません。見方によつては『先王の道』として漢民族の理想として生きて来たと云えましよう。だがこれは今日の毛沢東政権の下においてもたしかに生

うれしいなあ　僕等は　四月一日から小学一年生

次に掲げた人は皆さんのお友達です。（　）は部落名

田代小学校の部

（長谷）德永ヨシ子　石井原勉
德永親夫　前之園昭博（西中郡）
宮原米盛　德永ヨリ子　村山尚子
成瀬梢　迫田喜治　西拓男　田中
マサ子　笹原進　加塩朝枝（東
中郡）福留アケシ　大野リエ子
（橋ノ口）右田光二　中原和江
雄　名ケ迫麗子　松元百合子　松
山信一（宮崎）内村俊郎　湯ノ
谷吾志　唐仁原美代子　小梅枝賢
一（裏木）坂元ユウ子　上田ス
ズ子　裏木一徹　新西健蔵　尾ノ
後節雄　別府俊朗　木佐貫ツル子
岩下幸夫　上吹越政美（山ノ口
）上之原十美　松元フサ子　上之
原竜弘　松元ヨリ子（山下）湯
ノ谷巌夫　牧原晃一　南園茂子
岩下輝竜（馬場）小牧トシ子　平
山和藏（下）中原幸蔵　原徹志
西元芳光（東ノ原）梨脇妙子
丸田利光　宋吉次男（中村）久
船淑子　正木真子　宮園清人（
折小野）山之口和雄（下柴立）
岩下久夫　新西健蔵　尾ノ
村芳美　幸屋孝子（鶴園）水流
正人　鶴園久子　水流幸子　山田
悦郎　弓指ヒロ子　鑪原洋子　鶴
園良己（辺志切）近川マサ子
辺志切沢子　近川光雄　近川タキ
子（郷原）郷原ヒサエ　清藤正
人　郷原ヒロ子　久保ヤス子　松
崎ミエ子　郷原アヤ子　平原九夫
清藤修平（早瀬）小路ミチエ
小路美次　宮原マサ子（鳥淵）
白桃鈴子（上原）馬庭キヨ　迫
田ふい子　君付和人　前田和博
有田千鶴子（上栗迫）富尾クミ
坂下清春　柴立鉄二（平石）永
野ユクエ　柴立敏子　山崎岩男
平石十四郎（池野）窪ヒロ子
井上好子　川前浩一　川前順子
川路美津郎　中川春親（瀬戸口
）中野トミ子　時吉強　早瀬ミス
子　峯野満　加治佐カズ子　山之
内勇泰　川路幹　中園トシ子（
原沢）原沢七子　原沢武治　山下
文子　中村惠子　白桃将己（猪
鹿倉）川路和美　猪鹿倉シズカ
川路タケ子　上八重組代　猪鹿倉
ヒロ子　猪鹿倉アイ子　川路三郎
猪鹿倉正子　川路ユリ子　猪鹿倉
ヤス子　川路利武　猪鹿倉キヌ子
（花瀬官行）川路キミ子　黒川国
藏（川原別）坂元千惠子
大原小学校の部
（西大原）川辺エミ子　中野清順
肥後美技子　山元学（富田）野
口良子　深水力（中尾）西元五
十三　門松秀弘　横原正敏　横原
勝美　山野実雄　坂元兼義　坂元
アサノ　佐藤芳和（新田）市來
兼夫（東大原）下和田和好（
麓山）茶畑猛　町桑みず子　町京子
（鶴戸野）田方稔　桑原京子
（久木野）石原康雄（官行）毛
下久幸　中野満郎　細川親孝　黒
木リツ子　小玉百合子　扇見清隆
那須サチ子　水流育男（内ノ牧
）池田渡　脇田美知代　中村トシ
子　中村勝子　中村ヨウ子　山下
光夫

新刊図書購入お知らせ

公民館図書部では今回次の様な新刊書を購入致しましたのでお知らせ致します。

購入図書名

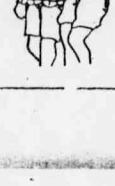
（一・二）カ
情報天皇に逢せず
ーネギー自敍傳　むさぼり学園
河童のへそ　愛と規律の家庭教育
医者の來る迄家庭の治療法　生活
改善の鍵　右文覚え書　もしたの
風　馬鹿一　新しい人相の見方百
般　精神衛生　農民は都会人にう
つたえる　亭主教育　妊娠育見
浅香主水捕物　太陽のない街　妻
よねおれ　さかさまの世界　春
旦那の選めがね　日本の真操　怒
れ三平　愉しみと日日　人間の歴
史（三）七十年の人生　折れ芦

入学された子供のしつけのしおり

まず、入学後の子供については、何といつても、自分の……で自分のことができる、いつてみれば、自立した生活ができるようにしてやらなくてはなりません。身のまわりのこと、つまりきものを着たり便所にいつたり、食事をしたりすることはもちろん、学校へいく仕度を自分でしたり、元気よく友達に加わつて登校したり、またひとりで帰つて来るというようなことまで、ひとり立ちした生活ができるようにしていくことが大切なのです。つまり、そういうことが子供が学校の生活がうまくできるようになる第一のもとなのです。

ひとりで学校へいけない、帰れないとなれば誰か迎つていかなければならない。迎つていくことは子供が親によりかゝつていることですから、急に校門でひとりで放りだされると、そこで気おくれするといつたことになるのです。ですからはじめは学校まで迎つていつても、次には町角まで次には、家の出口までというようにして、だん〳〵独り立ちで学校へゆくようにしなければならないのです。これはたゞ一例ですが、その他いろいろな点でも独り立ちができるように子供を導くことが、家庭での子供の導きの大切な点になるわけです。

つぎに子供が学校へいくようになつて一層注意した指導が必要なのは、子供の生活を規則的にすることです。夜は一定の時刻に眠り、朝は一定の時刻に起き、一定の時刻に学校に行くといつた生活をさせることです。夜はおそくまで起きていて朝はギリギリまで寝ていて大騒ぎをして食事をして、すぐとび出すといつたようなことをしていると、そのうちに学校へもつていくものを忘れたり、遅刻したり食事をしないで学校へ行くといつたことも起り易く、それが学校をきらつたり、学校へゆくのがいやになつたりするもとを作ることになり易いのです。



教育委員会事務局並公民館移轉お知らせ

教育委員会事務局並に公民館は、従來村役場議事堂横で執務致して居りましたが、去る三月十九日田代小学校講堂前の新廨舎に移轉致しましたのでお知らせします。電話番号は田代局二番の乙です。